

# 家園

## 第34号 (訪中特集)



特定非営利活動法人  
 中国帰国者・日中友好の会  
 〒110-0016 東京都台東区台東 3-35-7  
 ペガサスミシンビル1階  
 TEL:03-3835-9357 FAX03-3835-9358  
<https://jc-yuko.com//>

字体作者：周 慧琚



ハルビン空港で出迎えを受ける(2025年9月10日)

### 目次

★ 特集・「報恩の旅」写真.....	2
★ 黒竜江外国語学院での挨拶 By 池田澄江.....	3
★ ハルビン訪問記 By 安原幸彦.....	4
★ 訪中記 By 米倉洋子.....	5
★ 「感恩訪中」報告.....	6
★ 戦後80年、見つからないふるさと.....	7
★ 本会活動記録・お知らせ・編集後記.....	8

活動写真(「報恩の旅」特集)

(撮影: 吉岡孝行)



黒竜江外国語学院の公演後



朗読劇「孤児の涙」



舞踏劇「中国媽媽」



詩・歌「我有兩個家」



ハーモニニー演奏



ハルビンの中央ストリート



伏爾佳莊園にて

## 黒龍江外国語学院での公演前のあいさつ

NPO 法人中国帰国者・日中友好の会 理事長 池田澄江

本日、黒龍江外国語学院の教職員・学生の皆様と一堂に会し、友好交流を行う機会を頂き、嬉しい限りです。

まず、中国帰国者・日中友好の会を代表し、また個人として、本日の公演会場をご提供して下さった学院に対し、心より感謝を申し上げます。黒龍江省の屈指の外国語教育の雰囲気に触れ、青春の息吹と活力に満ちた皆様と交流できることを、90名を超える私たち友好訪中団一同、光栄に存じます。また、お忙しいなか、公演をご覧くださる皆様に対し、感謝と敬意を表します。

今年は中国抗日戦争勝利および世界反ファシズム戦争勝利80周年にあたり、中国各地で記念行事が開催されました。私は中国駐日本国大使館が主催の友好行事にも参加し、反戦と恩返しをテーマとした講演も行いました。現在の日本社会では歴史認識をめぐる複雑な変化が見られますが、その一部は私たちが望まないものもあります。私たちの人生は極めて特殊で、日本人でありながら、成長は中国の大地に深く根ざし、中国人民の無私の養育の恩を受けました。中国は私たちの第二の故郷であり、切り離せない青春の記憶と養育の恩があります。この特殊な人生軌跡が、私たちに日中両国に対する複雑な感情を抱き、誰よりも平和の尊さと友好の重みを分かっています。今回の公演を通じ、あの侵略戦争がアジア各国人民に危害を与えただけでなく、たくさんの自国民も被害を受けたことを伝えたいと思います。

私たち NPO 法人中国帰国者・日中友好の会は、主に日本の敗戦時に中国に残され、中国人民に養育された戦争孤児とその家族で構成されています。本会設立の主旨は、日本軍国主義に翻弄されたこの歴史を銘記し、中国人民の寛大な心と善意に感謝するとともに、微力ながら、両国民間の相互理解と世代を超えた友好促進に尽力することにあります。

歴史の重荷は後世に背負わせるべきものではありませんが、歴史の教訓は銘記されねばなりません。戦争を起こした反省は誠実でなければなりません。そうして初めて平和と友好の未来が保証されることが可能になります。真の友好は、誠実な行動により、信頼を得た上に築かれます。私たちの物語を語り続け、様々な民間文化交流活動を通じて、みな特に若い世代に正しい歴史認識を伝えたい、と思います。歴史を鑑とし、未来に向かう精神に従

ることを願っています。

黒龍江外国語学院が黒龍江省龍江省高等教育強省建設計画』のはかねがね承知しておりましたが、リハーサルで学院の実験センター、体育館などが整然の生き生きとした姿を見るこ



唯一の語学系大学であり、『黒重点建設校の一つであること。」「百聞は一見に如かず」と豊富な教育・生活施設、図書館と並び、至る所で学生の皆さまとことができました。特に英語、口専攻学部を設置し、多数の海多彩な国際交流・協力プロジェクト。「経世致用、学貫中西」

（世のために学び、東西の学問に通じる）を校訓とし、国際的視野と実践能力を備えたハイレベル人材の育成に尽力されていることに深く感銘を受けました。黒龍江外国語学院が語学人材育成の場だけでなく、知識を伝播し、友好を伝える場所であると確信しています。今日の公演を通じ、過去の光景を現代に示し、軍国主義がもたらした歴史的悲劇を二度と繰り返さないよう願うとともに、学院での交流が友好の種をまく機会となることを信じています。外国語は世界をつなぎ、国境を越え、隔たりを破り、互いを理解し、親近感と好感を増進させるものであるからです。

在席の学生の皆さんの中から将来には多くの外交官、通訳者、言語と文化の使者が誕生するでしょう。どうか皆さんは自分の才能を発揮し、言語を駆使して世界とコミュニケーションを取り、日中両国の言語・文化交流を促進する「文化の絆」をつなぐ、日中関係の健全で安定した発展の新たな序章を作り上げてください。

最後に、改めて黒龍江外国語学院の皆様の多大な支援と行き届いた手配に感謝申し上げます。学院のご発展と輝かしい成果をお祈りします。ご臨席の教職員、学生、各界の友人各位のご活躍、ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。また、日中両国人民の友情が美しい松花江の流れのように、途切れることなく、永遠に続くことを心より願っております。

## ハルピン訪問記

弁護士 安原 幸彦

9月10日から14日まで、残留孤児や2世の皆さんとハルピンを訪問しました。16年前の2009年にも訪問したのですが、その様変わりには驚きました。その時にはなかった40階建、50階建のビルが何本も建っていたからです。街中も本当に賑やかでした。

今回のメインは「孤児の涙」の公演でした。何度見ても胸にグッと来る演劇です。台詞が中国語でわからない私にもその場面が何かはわかります。全てを理解していないかも知れませんが、孤児の皆さんが旧満州の地で経験した地獄のような日々をよく表現していると思いました。

黒竜江省社会科学院の皆さんと交流も印象的でした。残留孤児の皆さんが経験したことに強い関心を持っていることにいささか驚きました。私も発言の機会があったので、孤児の皆さんが経験した3つの遺棄（終戦時の遺棄、戦後の遺棄、帰国後の遺棄）を紹介し、帰国後の遺棄と闘ってきた経緯をお話ししました。

孤児の皆さんとは別に、米倉先生・張さん・大久保真紀記者と731部隊の跡を見学しました。少し意外だったのは、731部隊の残虐性・非人道性をもっと展示しているかと思ったのですが、私たちが書籍で読んできたものより控えめな感じがしました。しかし、遺された建物などの遺跡は旧日本軍の残虐さを思い起こさせるものでした。一度は見ておくべきものですね。

9月10日至14日，我随同中国残留孤儿及其家属们等重访了哈尔滨。距离上次2009年的访问已过去16年，这座城市的巨变令人惊叹——当年不见踪影的40层、50层摩天大楼如今已林立街头，整座城市焕发着蓬勃生机。

此行重头戏是观赏话剧《孤儿泪》。这部作品每次观看都直击心灵，即便我不懂中文台词，每个场景传递的情感都清晰可感。虽然不能完全理解所有细节，但剧中生动再现了孤儿们伪满洲经历的那段地狱般的岁月。

与黑龙江省社科院的交流令人印象深刻。学者们对残留孤儿遭遇的深切关注出乎我的意料。在发言环节，我特别阐述了孤儿们经历的重重抛弃（战败时、战后以及归国后的抛弃），并分享了他们归国后为摆脱歧视而抗争的历程。

在米仓先生、NPO的小张和大久保真纪记者陪同下，我们还参观了731部队遗址。略显意外的是，展出的物品对部队残暴性的揭露比我们通过文献了解的相对克制。但那些保存完好的建筑遗迹，依然无声诉说着旧日本军的反人类罪行。这个承载着沉重历史记忆的场所，确实值得世人亲眼见证。

731 罪证陈列馆的结束语是：“别回头，向前走，出口有光，有人间烟火，有国泰民安；别忘记，来时路，有民族苦难，有国恨家仇”。

参观者在面对那么残忍的历史真相时，会产生种种复杂的心情。所以结束时提醒大家要铭记历史、珍惜和平。也告诉人们在回顾过去的苦难时，要勇敢地向前看，同时不忘历史的教训，努力维护国家的繁荣和民族的尊严。

731 部隊罪証展示館の結びの言葉はこう記している、「振り返らず、前へ進もう。出口の外には光があり、人々の安全な暮らしがあり、安泰の国家がある。けれど忘れてはならない、ここまでの道程を。そこには民族の苦難があり、憎しみがあつたのだ」。

この結びの言葉は、歴史の真実に向き合う訪問者の複雑な心情を考え、歴史を銘記し平和を大切にするメッセージを伝えている。過去の苦難を顧みるばかりしないで、勇気を持って前を見据えながらも歴史の教訓を忘れず、国の繁栄と民族の尊厳を守る努力を続けるよう人々に呼びかけている



## 戦後80年、残留孤児のみなさんとハルビンを訪問して

弁護士 米倉洋子

戦後80年。一番若い残留孤児も80歳になる今年、「訪中団を組んで大勢で中国に行くのはこれが最後」との思いで、NPOの皆さんは去年から訪中を企画されていました、熱心にお誘いいただき、弁護士からは安原先生と私、また残留孤児の恩人である河合弘之先生と、3人の弁護士がご一緒しました。9月10日～14日、残留孤児、2世、配偶者など総勢90名の大旅行でした。

9月のハルビンは、例年はかなり寒くなるそうですが、今年は晴天が続き、半袖で過ごせるほど気温も高く、私たちを歓迎してくれているようでした。

残留孤児のみなさんは、11日と12日、「孤児の涙」と「中国ママ」の劇を熱演し、中国の聴衆の方々から大きな拍手をうけていました。

黒竜江省社会科学院の方々とも、3夜連続で会食し、交流しましたが、みなさん残留孤児の歴史や日本での活動のこともよくご存知で、大歓迎して下さいました。

思えば、裁判が解決して2年後の2009年にも、「養父母謝恩の旅」として訪中団を組んで訪中し、温家宝首相から「みなさんは日中友好の架け橋」との言葉をかけていただきましたが、あれから16年、残留孤児のみなさんは本当に心をこめて日中友好のための活動を積み重ねてきました。その積み重ねが、今回のあたたかい歓迎につながったのでしょうか。

公式行事とは別に、安原先生、NPO職員の張さん、朝日新聞記者の大久保真紀さんと4人で、日本軍が細菌兵器の開発のため中国の人々に残酷な生体実験を行った731部隊の「罪証陳列館」を見学してきました。これほど残酷なことが行われた地に取り残された残留孤児の苦勞と、育ててくれた養父母の愛情の大きさを、改めて思いました。

孤児のみなさんの日中友好への強い思いを、私たちは若い日本の世代に伝えていく責任があると思います。

それにしても、80歳を過ぎた孤児のみなさんの若々しいこと！見習わなくては、と思うことしきりでした。みなさん、いつまでもお元気で！

战后80年，最年轻的残留孤儿也已80岁。怀着“最后一次组建访中团前往中国”的想法，NPO的各位从去年开始策划访中事宜。在各位的热情邀请下，我们律师团的安原先生和我，以及残留孤儿的恩人河合弘之先生，共三位律师一同前往。9月10日至14日，共有残留孤儿、第二代、配偶者等90人参加了这次大旅行。

9月的哈尔滨，往年已经相当寒冷，但今年晴空万里，气温也相当高，仿佛在欢迎我们。残留孤儿的大家在11日和12日，热演了《孤儿的泪》和《中国妈妈》两部剧，赢得了中国观众的热烈掌声。我们还与黑龙江省社会科学院的各位进行了连续三晚的会餐交流，大家对残留孤儿的历史和在日的活动非常了解，给予了我们热烈的欢迎。

回想起来，2009年，也就是诉讼解决两年后，我们曾以“养父母感恩之旅”的名义访中，温家宝总理曾对我们说“你们是中日友好的桥梁”。从那时起，残留孤儿的大家一直真心实意地为中日友好活动贡献力量。正是这些积累，才有了这次的热烈欢迎。

除了正式活动外，我们还参观了日本军队在中国人民身上进行残酷人体实验的731部队“罪证陈列馆”。在这里，我们再次感受到了残留孤儿的艰辛和养育他们的养父母的深情厚意。

我们有责任将孤儿们对中日友好的坚定信念传递给年轻一代的日本人。尽管已经80多岁，但孤儿们的年轻活力令人钦佩。希望大家永远健康！



聖ソフィア大聖堂にて

## 感恩訪中報告

編集委員：孙妮

2025年は中国人民抗日戦争勝利80周年、そして世界反ファシズム戦争勝利80周年にあたります。

80年前、あの侵略戦争によって中国に取り残された日本の戦争孤児たちの中で最も若い者も80歳になりました。14年にわたる戦乱の中国で、彼らを引き取り、我が子のように愛情を深く注ぎ、大事に育てた中国の養父母たちの恩を、孤児たちはいつときも忘れることはありません。日本にいながら、中国の「家」を思い続けてきました。6年ぶりにNPO法人 中国帰国者・日中友好の会が再び訪中団を結成し、ハルビンを訪れた。これは孤児たちにとって5度目の「感謝訪中」となりました。皆は非常に興奮し、予想を上回って、多くの参加希望者が現れました。孤児とその家族だけではなく、一般の日本人も参加を申し込んできました。孤児たちは、もう80歳を超え、今後団体で訪中する機会がもうないかも入れない、という気持ちで、この貴重な機会を非常に大切にしたい、と口そろえていました。

今回の訪問の重点は公演です、3月から池田澄江理事長の指示で、崔樹人監督の指導で、出演者たちは稽古を続けてきました。NPO レポートリーである舞劇「中国のお母さん」、朗読劇「孤児の涙」に加え、張兢が新たに創作した詩の朗読「父よ、母よ、私たちは帰ってきた」もあります。

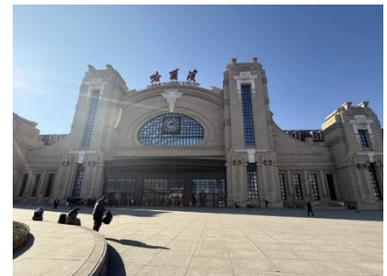
今年の夏は本当に暑かった！皆、炎天下で一つ一つのシーンを細部まで入念に練り上げました。池田理事長自らが参加し、崔先生が厳しくチェックし、北野先生は自身のチームを率いて、時間を費やし、稽古に欠かさずに参加しました。栗山先生と唐雪媛先生は自ら音響効果を調整しました。

すべての準備が整い、9月10日、総勢88人の訪中団が大勢で出発しました。長年支援してくださっている河合弁護士、安原弁護士、米倉弁護士、そして朝日新聞の記者大久保真紀さんも同行してくださいました。感謝団には孤児20人が参加し、最高齢は86歳です。中国での忘れがたい日々を振り返り、より多くの人にあの歴史と中国人民の慈悲を知ってもらいたいと考え、成田空港でも孤児たちがメディアの取材を受けました。

ハルビン太平国際空港では、関係者が「おかえりなさい」の横断幕を掲げ、まさに「家に帰った」という感覚に皆涙を流しました。団員たちは再び記者に囲まれ、メディアの取材を受けました。これは普通の旅行ではなく、日中友好を促進する旅なのです。

9月11日と12日には、それぞれ外国語学院とハルビン評劇院で入念に準備したプログラムを上演しました。池田会長は深い感情を込めて、中国の養父母への感謝と故郷である中国への愛着を表現しました。

二回公演の効果は驚くほど素晴らしいものでした！「中国のお母さん」、「孤児の涙」、「父上、母上、私たちは帰ってきた」、「私には2つの家がある」、そして日本人出演者武村恵理が歌った「松花江上」など、出演者が「お母さん！」と感情をこめて呼んだ時に、他の出演者と観客も声を詰まらせ、涙を流しました。これは戦争への抗議であり、養父母への感謝であり、日中友好への呼びかけであり、次の世代への伝言でもあります。ある青年学生が日本のメディアの取材に対してこう語りました、「私は残留孤児という存在を知りませんでした。戦争は本当に残酷です。敵の子供を育て上げた中国人民は偉大ですね。」ある日本人は公演を録画し、その後2日間連続で再生して観ていました。「理解できましたか？」と尋ねると、「理解できた、そして涙を流した。本当に素晴らしい！」と答えてくれました。



哈爾濱駅

半年以上にわたる入念な準備は多くの成果をもたらし、期待された宣伝効果も達成しました。今回の訪問が円満に成功したのは、まず中国駐日本大使館の後援のおかげです。大使館の職員は様々な障害や困難を排除して協力してくださいました。同時に、黒竜江省社会科学院、特に笄志剛所長、そしてハルビン日本遺孤養父母連誼会の胡曉慧会長にも感謝します。私たちの訪問のために、公演会場を確保するために奔走し、公演の成功に大いに貢献してくださいました。5日間にわたる「感恩の旅」は終わりましたが、名残惜しい気持ちです。次回、再び故郷に戻り、少しでも日中友好と世界平和のため何かをすることを楽しみにしています。

さようなら故郷！ さようなら親愛なる人々！ さようなら私の魂が喜ぶ場所！

## 戦後80年、まだ見つからない「ふるさと」

河村志志

80年。それは、私の人生のほとんどを覆う長い年月だ。

1945年、日本は敗戦を迎えた。その時、私はまだ幼く、記憶はなかった。両親と離ればなれになり、私は中国東北の地に取り残された。

養父母に実子のように大事に育てられた私は、当たり前前に中国語を話し、中国の習慣を身に着けた。でも、自分が日本人であることを知ってから、時折、見たことのない祖国に想いを馳せていた。自分が「日本人」だという自覚が日に増していた、心のどこかで「帰るふるさと」は祖国の日本だ、と思い始めた。

戦後数十年も経ってから、「残留孤児」という言葉が広まり、私たちのような存在が注目されるようになった。日本政府の調査が始まり、血縁を探る人々が現れた。私も何度か手がかりを探したが、結局、両親の消息はわからなかった。それでも祖国に憧れ、帰国した。

80年が過ぎ、今、私は家族に囲まれ、静かな暮らしを送っている。

帰国して20年、気づいた。日本は私にとって「ふるさと」だろうか？ 答えは出ない。失ったと思ったことがあったが、一度も擁したことがないかもしれない。戦争が奪ったものは、単なる時間や土地ではなく、わたしにとっては「帰るふるさと」そのものだった。

今、戦後80年を迎え、私は思う。戦争の傷は、世代を超えて残る。私のような残留孤児だけでなく、家族を失った人、故郷を追われた人——みんな、それぞれの物語を抱えている。80年経っても、癒えない傷がある。

もし、戦争のない世界を願うなら、まずは過去を見つめ、記憶を受け継ぐことから始めなければならない。私の人生は、戦争が生んだ悲劇の一片にすぎない。でも、私の小さな声が、二度と同じ過ちを繰り返さないための糧になれば——それだけが、私にとってはせめてもの救いだ。

八十年。这漫长的岁月几乎要覆盖了我的一生。

1945年，日本战败。那时我还年幼，没有记忆。与父母失散后，留在中国东北的黑土地上。

养父母视我如己出，我自然而然地学会汉语，学会遵循中国的习俗。但自从知晓自己日本人的身份后，偶尔会遥想未曾谋面的祖国。当“日本人”的自觉日益强烈时，心底某处开始认定：该归去的故乡应是日本。

战后数十年，“战争遗孤”开始被大家知晓，我们这样的存在终被关注。日本政府启动调查，出现了寻亲的人们。我也几度追寻线索，最终却未能知晓父母下落。即便如此仍向往祖国，选择了归日。

八十年过去，如今我儿孙绕膝，过着宁静的生活。

归国二十载，蓦然惊觉：日本真是我的“故乡”吗？我找不到答案。曾经我以为只是一时失去，但现在应该说从来就不曾拥有。战争夺走的不仅是时光与土地，对我而言更是“可归之乡”本身。

值此战后八十年，我深切体会到：战争伤痕会跨越世代。不仅是像我这样的遗孤，还有失去家人的人、被迫离乡的人——每个受害者都背负着自己的故事。纵使八十年流逝，仍有无法愈合的伤口。

若期盼没有战火的世界，首先必须正视过去，传承记忆。我的人生不过是战争悲剧的一个碎屑。但若我发出的微弱声音能成为避免重蹈覆辙的基石里的一颗沙粒——于我便是最大的救赎。



東北の暮らし光景

認定 NPO 法人中国帰国者・日中友好の会活動 (R7 年 7 月～R7 年 11 月)

R7 年 5 月 日	元東京最高裁裁判官・中国残留孤児国家賠償訴訟弁護団団長鈴木経夫がご逝去、5 月 6 日に行われた告別式には、本会から池田等 5 人参列
R7 年 6 月 25 日	中華人民共和国駐日本国大使館主催の「戦後 80 周年記念集会」に本会から 30 人出席
R7 年 7 月 25 日	厚労大臣と面談、池田など 5 人と安原弁護士、米倉弁護士が参加
R7 年 8 月 26 日	元駐中国大使阿南惟茂記念シンポジウムに、池田と張が出席
R7 年 9 月 7 日	「チャイナフェスティバル 2025」に舞踊教室・楽器教室・音楽教室がメインステージで出演、成功を収めた
R7 年 9 月 10～14 日	「感恩の旅」と名付けられた訪中団がハルビンを訪問
R7 年 10 月 22 日	一般社団法人 日中協会の成立 50 周年レセプションに本会池田、他 2 名が参加
R7 年 11 月 6 日	本会の協力で竹内亮が製作したドキュメンタリー映画「名なしの子」の試写会が中国大使館にて行われ、本会から 20 人出席

※お知らせ※

★2026 年新年会開  
時間:2026 年 2 月 23 日  
場所:王子 北とぴあ

★お正月休み  
時間:2025 年 12 月 27 日  
～2026 年 1 月 4 日

会報のバック・ナンバー  
お読みになれます♪



《家園》編集委員 (第 34 号)

白 山 明 徳	河 村 忠 志
二 田 口 国 博	張 狄 妮
祖 父 江 安 紀 子	孫 妮
写真撮影	吉岡孝行
レイアウト	松本莉恵 張狄

編 集 後 記

終戦から 80 年。生きていた証人とされている残留孤児も段々といなくなる。

習近平中国国家主席は、以前の抗日戦争勝利記念日に「日本が侵略戦争を起し、中国人民に災難をもたらしたのは、日本軍国主義がやったことであり、中国政府と人民は未だかつてあの戦争の責任を中国人民に帰したことはない」と語って、当時の日本政府と中国人民を区別しました。中国国民の大多数もそのような考えを持っています。だから「残留孤児」という特殊な集団がいる、そして方正県で「日本人公墓」が建てられた。

でも逆の立場だったら、公墓は立てられたでしょうか、そして何人の「孤児」が生き延びられるか、考えさせられます。

よろず相談窓口

TEL : 03-3835-9357 平日 10:00～16:00 日本語・中国語対応  
FAX : 03-3835-9358 随時可